

会議録

| | |
|---|--|
| 会議の名称 | 第3回西東京市学校施設適正規模・適正配置等検討懇談会 |
| 開催日時 | 令和7年12月22日(月曜日)午後1時から |
| 開催場所 | 田無庁舎5階会議室 |
| 出席者 | <p>【委員】藤江座長、中嶋副座長、加藤委員、松永委員、鈴木委員、長谷川委員、真鍋委員、小田委員、佐々木委員、辻委員 欠席：高木委員、山本委員、大久保委員</p> <p>【事務局】飯島副参与兼教育企画課長、鈴木教育企画課企画調整係長、中屋教育企画課企画調整係主査、浅水教育企画課企画調整係主任、関澤教育企画課企画調整係主任、木藤教育企画課企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】2人</p> |
| 議題 | <p>議題1 会議録について</p> <p>議題2 就学人口推計（児童・生徒数、学級数）について</p> <p>議題3 学校施設の適正規模に関するアンケートについて</p> <p>議題4 その他</p> |
| 会議資料の名称 | <p>資料1 就学人口推計について</p> <p>資料2 学校施設の適正規模に関するアンケートについて</p> <p>別紙1 学校施設の適正規模に関するアンケート（修正案）</p> <p>別紙2 学校施設の適正規模の基準について</p> |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p><開会> 座長より開会の挨拶</p> <p><u>議題1 会議録について</u> 第2回会議の会議録内容について、承認。</p> <p><u>議題2 就学人口推計（児童・生徒数、学級数）について</u> ○事務局 （資料1について説明）</p> <p>○座長 ご質問等があれば、伺う。</p> <p>○委員 「就学人口を踏まえた今後の検討」は、小学校について1校当たり12学級では20校となっているが、西東京市は18校しかないが正しいか。 中学校の学校数について、学級は35人学級で計算したものであるか。中学校では、2042年には、1校当たり12学級で8校となっているが、これは現在の9校から1校減るということか。</p> | |

○事務局

本資料の「就学人口推計を踏まえた今後の検討」は、現状の西東京市の推計結果を国の基準に当てはめたものである。この結果だけをもって、何かを判断するわけではなく、今後の検討における1つの材料としてお示しした。また、中学校の学校数を算出するための学級数は、35人学級で計算したものである。

○委員

住みやすいまち西東京として、転入してくる子どもの数が読めない状況が続いているが、どのように推計を行ったか。

○事務局

転入に関しては、教育委員会の把握している過去5年の実績を基に推計している。畑が住宅に変わるなどして特定の学校にまとめて転入する事案については、事務局でも予想することは難しい状況である。その点については考慮しきれていないが、実績ベースでのデータは結果に反映している。

○委員

転入の子どもに関しては、今後も予想以上に増えていくのではないかと考えている。

○委員

推計については短期的・長期的の2通りで考えた方がよいと感じる。そのように考えた場合、本懇談会では今後5年くらいの期間を検討すればよいのか。

○事務局

現行の方針では、10年程度で見直しを行うこととしている。西東京市は畑が多く、今後開発が行われる可能性もあるため、推計が難しい部分もある。様々な推計では少子化と言われるが、西東京市では、現時点で子どもの数が増加している。西東京市の地域性を踏まえたご意見をいただきたい。

○委員

西東京市としての適正規模とあるが、中学校の35人学級が来年度から始まった後に西東京市としては35人学級よりも30人学級がよいと考えた場合、学級数が増えることになる。そうすると1校当たりが必要となる教員数が増えることになる。そうした場合、教員の定数が国の基準で決まる問題もあるため、学校として運営していくことは難しくならないか。

○事務局

現在、35人以下で学級を編成している自治体について把握していないが、海外ではそのような事例があることは承知している。西東京市独自で設定した場合、教員数が対応できるかは東京都に確認していない。

○委員

35人学級とはどのようなものか。1人の教員が35人の子どもを見るということか。

○事務局

35 人学級とは、1 人の教員が 35 人の子どもたちを見るということではなく、子ども的人数が 35 人で 1 クラスになるという学級編成の考え方である。

○委員

国の基準が 35 人学級となった場合、その基準に則り 1 校当たりの教員の定数が決まることになる。西東京市が独自に 30 人学級とした場合、本来の学級数より多くなり、国の基準より多くの教員が必要となる。そうすると追加で必要となる教員の予算は市が計上することになるが、現実的には難しいのではないか。

○事務局

西東京市が独自の基準を設ける場合は、そのようになると考えられる。

○座長

本懇談会では、適切な学級数の基準について意見を出し合う場であり、出てきた意見の取扱いについては別の場で検討することになる。

○事務局

適正な規模について、国などにより基準は示されているが、畑の多さなど西東京市の特徴を踏まえた内容にしていきたいと考えている。

○座長

20 年後の西東京市の教育を議論するための材料として、本日の資料（就学人口推計やアンケート）が用いられることになる。

○事務局

本日の資料に関するご意見が別途あれば、後日メール等でもいただきたい。

○委員

西東京市の特徴として、他の地方都市とは異なる人口動態であると感じている。都心へのアクセスがよい点などから、生活の利便性は高い。そのため、仮に出生数が減った場合でも子育て世帯の入れ替わりは他の自治体よりも高いと感じている。

本日の資料で、低位、中位と高位の推計が出ているが、振れ幅もあると思う。その取り方をどう取るかが非常に重要になると考える。相続や土地の問題で、今後子育て世代が流入することは考えられる。特に大規模開発だけでなく、小さいところでの住宅更新などによる影響も考える必要があると思われる。

○座長

今後、大規模な住宅の開発がないとしても、大学や企業の誘致の可能性もあり、そういったことでも推計は変わってくると思われる。出生率だけではなく、転入による影響も考慮して検討を進めていくとよいと考える。

○委員

住吉小学校の周囲においては、古い家が壊されて新しい住宅が建つなど、近隣の風

景が変わってきている。学級数についても来年度は全学年で3学級になることも予想されている状況である。学校施設の決まった面積の中で、教室をなんとか作ることに苦慮している状態である。泉小学校と統合した際のメモリアルルームの取り扱いを検討している状況もあり、現在の対応も重要であると感じている。

議題3 学校施設の適正規模に関するアンケートについて

○事務局

(資料2、別紙1、別紙2について説明)

○座長

ご質問等があれば、伺う。

○委員

アンケートについて、子どもに答えさせてみたところ、小学校の子どもは親のサポートなしでの回答は難しいと感じた。また、子どものアンケートに対する感じ方として、今の学校生活の状況が変わるとどうなるかが判断基準になるため、その判断基準でよいのか疑問に感じた。中学生に関しては、保護者の選択肢にあるような回答はでなかった。他の中学校の状況を把握した上での回答となっていたが、その答えがエリア(学区)と結びついていないように感じた。その点を踏まえて、子どもたちの意見を聴取したい場合には、親がアンケートに答える際に子どもに意見を求める形の方が良いと思う。

小学校低学年では、1クラス当たりの人数が少ない方が良く、高学年では友達とグループで動くようになり、1クラス当たりの人数に関する意見が変わると思う。そのため、学年によって保護者の考え方も変わると思われ、ある程度子育てを経験した保護者に意見を取った方が良くと思う。

保護者のアンケートの「4」「5」を、中学生の保護者に聞くのであれば、その項目については、小学校と中学校を回答対象としても良いと感じた。

○委員

小学生用のアンケートについては、もう少しわかりやすい文章にした方がよいと感じた。学年のクラス数や人数については、判断基準がない中でどのようにやっていくかが課題であると感じた。

○委員

資料2のアンケートは公表される予定か。アンケートの結果が、今後の教育行政に生かされるのであれば、アンケートを答える側も前向きになれると思う。そういった実感があれば、子どもへの働きかけや一体感が出ると感じる。

○事務局

アンケートの結果については、懇談会内で結果をお示しする。本懇談会は公開されており、資料についてもホームページ等で公表する。いただいたご意見については、アンケートの本文に記載していきたいと考えている。

○委員

大規模校である本校は児童数が多いことを学校の強みとして、学校経営している。例えば、表彰されるととても多くの児童から拍手を受けることができる。保護者用のアンケートで、1学年当たりのクラス数が多い場合の影響などが、イメージから選択されてしまうと実態とあっていない結果となってしまうものもある。そのような選択肢が、「なんとなく」で選ばれることがないようにしていただきたい。

○委員

保護者へのアンケートを「すぐる」で配信する場合には、子ども用のアンケートも合わせて配信していただきたい。また、学級数や1クラスの人数については、運動会や合唱祭、勉強の時など場合分けをしても良いのではないかを感じた。

○座長

委員の意見の中にもあったように質問項目を読んで不安に感じる保護者もいると思われるので、各委員の意見はその通りだと思う。

○委員

中学校教員用のアンケートで、「5」「6」の設問は担任を持っていない教員でも回答が可能な内容である。

○座長

質問に対して、回答対象に条件を付けた方が良いかは校長先生の意見を踏まえて決定した方がよいと考える。

○副座長

小学校教員のアンケートにおいても、ほとんどの教員で回答が可能な内容であると感じた。「ちょうどいい学級数」について、回答を1つにしたいと説明があったが、国の適正規模の基準が1校当たり12～18学級であることは分かっているので、小学校では2学級か3学級のどちらにするかで迷うことになる。その点から、この設問については複数回答の方が良いという思いがある。

保護者のアンケート項目で、「3つ選択」となっているが、前回の案では「3つまで選択」となっていた。なぜ「まで」が抜けることになったのか。当てはまる項目が1つしかない人に、無理やり3つ選ばせるのはどうかと感じる。

小学生と中学生の子どもがいる保護者は、小・中学校のそれぞれで回答するのか。また、兄弟で小学校に複数人が在籍している保護者の回答は1回でよいのか。場合によっては保護者でも父・母のそれぞれで回答したい家庭もあると考える。そのあたりも整理して記載する必要があると考える。

○座長

調査期間が1月中旬から2月上旬とあるが、回答はその期間で集まる見込みであるのか。

○事務局

アンケートの回答期間は今後正式に定めた上で、教員の皆様にはできるだけ多く回

答いただきたい。子どもたちや保護者の皆様については、任意の回答となるため、期限が来たらそこまでの回答数で分析を行うこととなる。

○座長

保護者のアンケート項目の中に子どもの意見を聞く項目を含めることは技術的に可能か。

○事務局

可能である。

○座長

副座長より意見のあった「回答を1つではなく、複数もしくは幅を持たせた回答とする」ことは可能か。

○事務局

学級数の回答方法について、どのようにするかは検討させていただく。

○座長

本日出た意見を踏まえた修正については、座長と事務局で行わせていただき、修正が完了したアンケートは、アンケート開始前に委員の皆様へ送付させていただくこととしたいが問題ないか。

(異議なし)

今後のアンケート等に関するご意見の受付期間については、事務局より別途連絡させていただく。

○委員

小学生用アンケートで、学校によって学級数やクラスサイズが異なると思うが、選択肢の「少ない」「ちょうどいい」「多い」といった回答はどのように取りまとめる予定か。

○事務局

今日いただいたご意見を基に、アンケートの取り方・集計方法の見直しをさせていただきたい。

○委員

本アンケートをどの程度の資料とする予定なのかを教えてください。

○事務局

子どもたちの現在の環境における率直な意見を聞きたいと考えている。意見の扱いについても今後検討していきたい。

議題4 その他

○事務局

次回会議は1月23日（金）を予定している。次回会議の詳細や、会議資料へのご意見に関する期限については、後日メールで連絡させていただく。また、本日の議事要旨は、後日メールで送付させていただき、委員確認後の第4回会議で了承を得て公開とさせていただく。

<閉会>